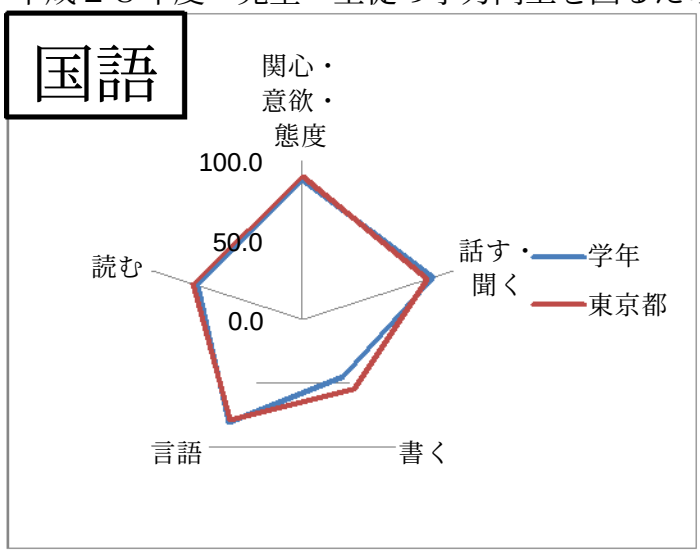
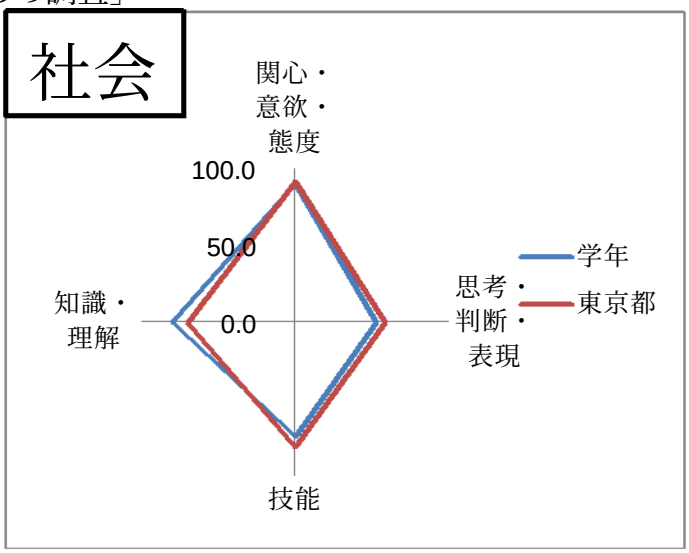
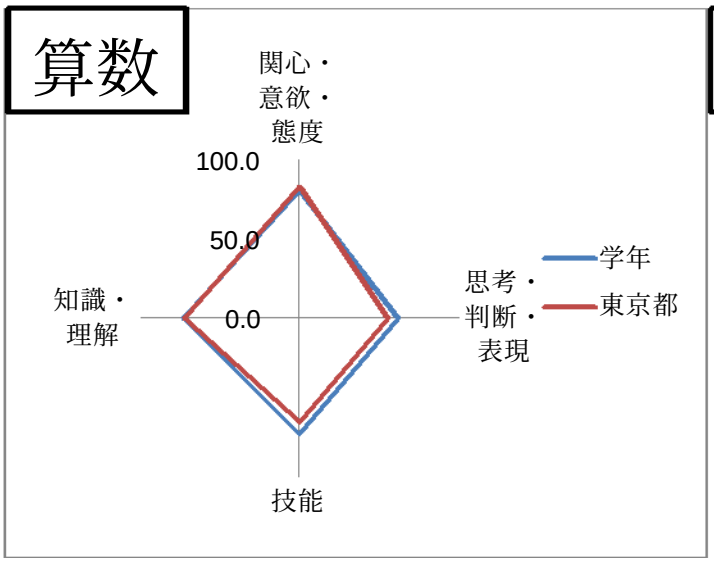
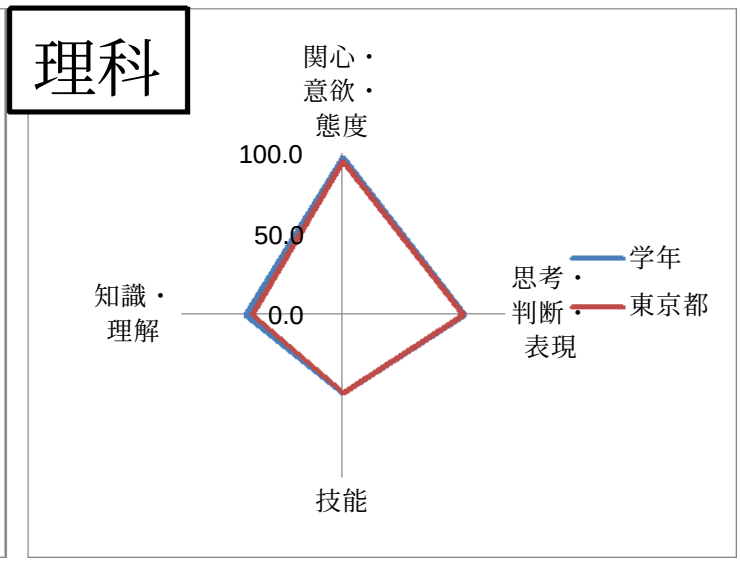
平成２８年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」









≪結果と考察≫

〇国語・社会においては都の平均をわずかに下回ったが、算数・理科に関しては約３ｐｔ程度上回った。

〇４教科全てにおいて、「知識・理解」の観点で東京都の平均を上回った。

〇前年度までの算数の理解に関して自信があると答えた児童が８割程度いた。（児童質問紙調査より）。

以上の結果から、昨年度より続けてきた取組が成果として表れてきたと考えられます。

学力向上に向けて、以下の取組について、継続的に取り組んでいく必要があります。

①学校体制で学力アップを目指す取組

・水曜６校時のマスタータイム

・補習時間の確保

②授業における指導法の工夫

・校内研究における算数科、総合的な学習の時間の授業研究

・課題解決的な学習を取り入れた授業づくり

③家庭学習による家庭との連携

・年間３回の家庭学習キャンペーンの実施

という三つの視点で、今後も学力向上に努めてまいります。

≪改善に向けて≫

１．共通

○「東京ベーシックドリル」を朝の学力アップタイムや家庭学習キャンペーン、個人に対する支援で活用する。理解が不十分な児童に対しては、パワーアップタイム（家庭訪問・個人面談の際の５時間授業を活用した放課後の補習教室）で補習する。同様に、基礎問題の反復練習を徹底する。

○個人面談において、保護者に個人票や普段の成績（国語・算数）を手渡し、それぞれの課題を伝え、各家庭での学習習慣を身に付けてもらうなど、家庭との連携を図る。

○児童が他者と関わりながら主体的に学び、かつ理解が定着するよう、各教科における学習習慣を確立する。

○各学年の各教科における確実に身に付ける内容を明確にし、家庭と連携しながら徹底を図る。また、松江小独自の取組である「松江小マスターテスト」「マスター検定」を実施し、既習事項の定着を確実にする。

２．国語

○「いつ」「どこで」「だれが」「何を」などの場面設定を捉えて文章読解をさせたり、叙述を基にして登場人物の気持ちを想像させたりする。

○大事な言葉に線を引くなど、重要なポイントを押さえて答えたり、まとめたりすることを意識させる。

○漢字の学習に繰り返し、丁寧に取り組み、覚えた漢字は普段から使うという習慣をつける。

３．社会

○「資料から情報を正確に読み取る力」を高めるために、授業で資料を多く取り入れ、児童が必要な情報を取り出せるように、５Ｗ１Ｈの視点から、具体的な発問や指示を行う。

○「比較・関連付けて読み取る力」を高めていくために、資料から取り出した情報について、それぞれの「共通点」「相違点」「つながり」を考えさせる。

４．算数

○問題解決学習を基盤にした学習を展開する。「問題の理解」「解決の計画」「解決の実行」「解決の検討」「まとめ」という学習過程を毎時間実践していくことで、主体的に問題に取り組む力を身に付けさせる。

○具体的操作活動を行い、図や式にするきめ細やかな指導を行っていく。

○学び合いの指導の工夫を行うことで、児童が「できた」「分かった」という実感が高まるようにする。

○「東京ベーシックドリル」を繰り返し活用し、基礎基本の定着を図る。

５．理科

○学習内容と日常生活の中の自然現象とを結び付けて考えさせ、知識・理解の定着を図る。

○「問題」「予想」「実験」「結果」「考察」という問題解決の過程を基盤とした授業展開を行い、児童が主体的に考え、問題を解決する態度を身に付けさせていく。

○実験器具の使用方法に関しては、単元ごとに繰り返し指導することで、身に付けさせていく。

○校内自由研究コンクールを実施し、理科に対する興味・関心を高めていく。